

災害統計グローバルセンター(GCDS)のセッションを開催しました(2019/11/11)

テーマ：災害統計の整備、国際連携

場所： 仙台国際センター 会議室 萩

11月11日(月)、災害統計グローバルセンター(GCDS)では世界防災フォーラムにおいて、「Recent Progress of the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)」と題したセッションを開催しました。当該セッションでは、小野裕一センター長・教授(情報管理・社会連携部門)、奥村誠副センター長・教授(人間・社会対応研究部門)をはじめ、共同研究者である国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社の関係者が登壇し、GCDSにおけるこれまでの研究成果等について発表を行いました(座長は佐々木大輔助教(情報管理・社会連携部門)が務めました)。また、GCDSのパイロット国2か国(インドネシア・フィリピン)の防災関係者にも登壇頂き、GCDSの活動等についてコメントを頂戴しました。セッションの最後にパネルディスカッションを実施し、GCDSの今後の活動等について、フロアからも複数の質問・コメントがありました。

本セッションは、朝早い時間帯の開催であったにもかかわらず、80名近くの方が参加され、GCDSの活動に対する関心の高さが窺えました。GCDSでは、引き続きUNDPや、富士通株式会社をはじめとする民間企業との連携を密に取り、世界の災害統計の発展と防災力向上に向けて、学際的・分野横断的に研究・活動を進めていきます。



セッションの様子

文責：佐々木大輔(情報管理・社会連携部門)